

(研究報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	紹介から訪問診療開始, 在宅療養期間に関する実態調査 —在宅療養への円滑な移行ができる体制作りのために—
演者名	岩井 正勝, 高橋 保, 村田 望, 木村 幸博
所属	もりおか往診クリニック

研究方法 (右から番号を選び NO. 欄に番号をご記入ください)	1. 症例報告 2. 症例シリーズ報告 3. コホート研究 4. 症例対照研究 5. 調査研究 6. 介入研究 7. 二次研究 8. 質的研究 9. その他研究	NO.
		5

【目的】住み慣れた地域や在宅で療養できるように, 在宅医療の充実が求められている. 一方, がん診療連携拠点病院を含む急性期病院では, 在院日数の短縮が図られ, 外来で治療する傾向にある. 在宅療養へ円滑に移行できるようにするために, 当クリニックに紹介される患者について, 訪問診療開始までの期間, 在宅療養の期間に関して, 実態を調査した.

【方法】2011年1月1日から2013年12月31日までに紹介された675例のうち, 訪問診療を行った664例を対象に, がんの有無, 外来・入院, 転帰, クリニックが連絡を受けてから訪問開始までの日数, 在宅療養の期間を調査した.

【結果】

- 紹介患者の内訳: がん患者が285例(入院137, 外来148), 非がん患者が379例(入院151, 外来228).
- 転帰: ①がん患者の在宅死は, 207例(自宅195, 施設12). ②非がん患者の在宅死は, 98例(自宅60例, 施設38).
- 外来から紹介されるがん患者148例の検討: ①連絡から訪問開始までの日数, 在宅療養期間の中央値は5日, 40日. ②63例で, 連絡を受けてから3日以内に訪問診療を開始した. ③21例が, 在宅療養期10日以内であった.
- 入院から紹介されるがん患者137例の検討: ①132例に退院前カンファレンスを施行. ②連絡から退院前カンファレンスまでの日数, 連絡から訪問開始までの日数, 在宅療養期間の中央値は5日, 9日, 47日. ③13例で, 連絡を受けてから3日以内に訪問診療を開始した. ④17例が, 在宅療養期10日以内であった.

【考察】

今回の実態調査により, 連絡を受けてから訪問診療開始までの期間が短い症例や, 在宅療養が短期間に終わる症例も見られる事が明らかになった. 急に紹介になる場合には, 訪問診療のみならず, 訪問看護を含めた, 多職種協働のための早急な体制作りが必要となる. フットワークが軽いことは良いことではあるが, 入院のみならず, 外来においても, 円滑に在宅療養に移行できるように, 問題点を抽出し, 改善を図ることが必要である.